

## オーディオ実験室収載

### STAGE+を楽しむ(327)(HP 収載) —オラフソンのバッハ、ベートーヴェン、シューベルト—

#### 1. 始めに

前報(326)に引き続き、STAGE+のオラフソンのバッハ、ベートーヴェン、シューベルトの演奏の試聴を実施します。

#### 2. 試聴音源

今回は、前報(326)に引き続きオラフソンのバッハ、ベートーヴェン、シューベルトの演奏を選びました。

**Opus 109 (Beethoven | Bach | Schubert)**

演奏:

ヴィキングル・オラフソン (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ 《平均律クラヴィーア曲集》第1巻

前奏曲 第9番 ホ長調 BWV 854

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第27番 ホ短調 作品90

第1楽章: Mit Lebhaftigkeit und durchaus mit Empfindung und Ausdruck

第2楽章: Nicht zu geschwind und sehr singbar vorgetragen

ヨハン・セバスティアン・バッハ パルティータ 第6番 ホ短調 BWV 830

I. Toccata

II. Allemande

III. Corrente

IV. Air

V. Sarabande

VI. Tempo di Gavotta

VII. Gigue

フランス・シューベルト ピアノ・ソナタ 第6番 ホ短調 D. 566

第1楽章: Moderato

第2楽章: Allegretto

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 作品109

第1楽章: Vivace ma non troppo ? Adagio espressivo

第2楽章: Prestissimo

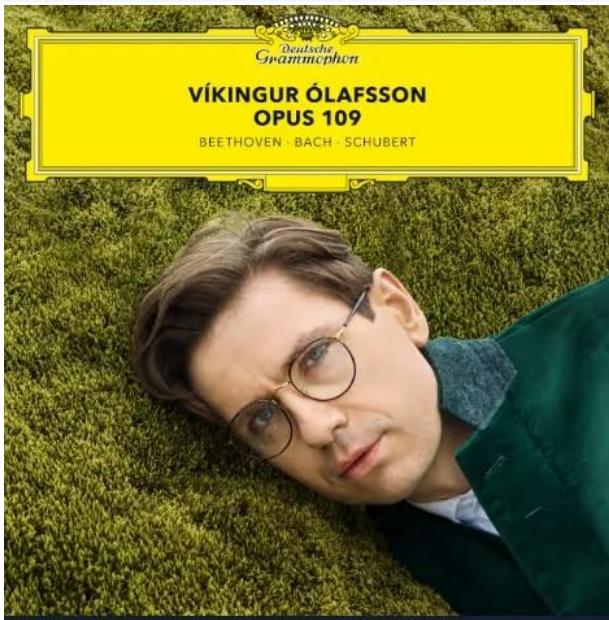
第3楽章: Andante molto cantabile ed espressivo

ヨハン・セバスティアン・バッハ フランス組曲 第6番 木長調 BWV 817

III. Sarabande

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン Piano Sonata No. 30 in E Major, Op. 109

III. Andante molto cantabile ed espressivo (Edit)



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第 27 番と第 30 番は、お馴染みの曲でオラフソンの端正で街いのない演奏です。

シューベルトのピアノ・ソナタ第 6 番は抒情的で美しい演奏です。

バッハの《平均律クラヴィーア曲集》第1巻の前奏曲第9番、パルティータ 第6番、フランス組曲第6番 III. Sarabande は、オラフソンが得意とするバッハであり、内省的な表現でじっくり聴かせてくれます。

#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、オラフソンのバッハ、ベートーヴェン、シューベルトは、それぞれの曲の表情をじっくりと聴かせてくれる演奏でした。

以上